

## 分科会開催報告書

報告日 令和 4年 2月 26日(金)	報告者 佐藤和広
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ 第二学習 島原の乱⑭
開催日時 令和 4年 2月 24日(水) 午前 10:00 時 ~ 12:00 時	開催場所 金沢公会堂第二会議室
参加人数 古文書を読む会会員 男 8名 女 2名 合計 10名 欠席者 4名	
<p>幕府軍トップ松平伊豆守信綱は原城の守りが固いと判断し、持久戦で兵糧攻めにより城を落とすこととし先駆けを禁止した。之に対し敵は退屈して落書きの矢文を射出し幕府軍をあざけた。伊豆守は平戸よりオランダ船を呼び寄せ、海上より大砲で原城を砲撃したため「大軍にも拘らず外国の支援を頼むは武士の風上にも置けぬ」と一揆軍より軽蔑された。</p> <p>しかし一揆軍は陸上からも大砲を打たれ、徐々に兵糧不足と弾薬不足に陥った。</p> <p>二月廿一日夜半一揆共夜襲をかけたが効果は少なく撤退。 山田右衛門作の裏切りにより原城内部情勢は筒抜け、幕府側は籠城軍の食料が尽きかけているとの確信をもった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>二月廿七日城責めの事</li></ul> <p>全九州より召集を受けた幕府軍は総勢約13万人に膨れ上がった。</p> <p>但し城内の様子をうかがうと人影一人もないので、伊豆守は鍋嶋軍に二の丸出口に様子見に出るよう命令、これを先駆けとみた他の幕府軍が一斉に各方面から城に突入し、壮絶な殺戮が始まった。籠城の老若男女を問わず泣き騒ぐ者を突き伏せたので、これが最後と火の中に飛び込む者も有り、多勢の中かけ入りわざと討れる者も有り阿鼻叫喚の修羅場と化した。生け捕りされた者幾千人、全員首をはねられる。</p> <p>併し一揆の大將四郎の首が分からず「前髪首取りたる者は本陣に持参せよ」と総陣に触れた。すると陳佐左衛門なる侍が持ち来った首を見て四郎母が涙を流したので、之を見て伊豆守はこれが四郎の首に紛れることなしとして、四郎母以下係累五人の首をはね獄門にかけた。</p>	
次回予定 令和4年3月10日(木) 10:00~12:00 場 所：金沢公会堂第二会議室 テーマ：第一学習 昨夢記事 貳(中根鞆負編)	